朝鮮石人像を訪ねて（65）

深田　晃二

～鎌倉市内探索編～

1．はじめに

東京町田市での仕事が朝からのため前日の9月30日の午後を鎌倉市内の石人像探索に当てた。

9 月 30 日という日はインドネシアの政権交代事件の日と記憶している。1965 年 9 月 30 日に陸軍左派がスカルノ大統領（初代大統領）を守るとして親米派の陸軍将軍ら 7 人を拉致・殺害。予備軍司令官だったスハルト少将が直ちに鎮圧し、インドネシア共産党（PKI）の陰謀だとして弾圧した。住民同士の虐殺は全土に及び、PKI に融和的だったスカルノ氏は権力を奪われ、68 年 3 月、スハルト氏が第 2 代大統領に就任した、という事件であった。

1 月には今回同様に大分市での仕事の後に別府温泉に寄ることができ仕事ついでの石人像探索は良い息抜きとなっている。

新横浜に昼過ぎ着き、横須賀線で北鎌倉駅に降り立った。遠いと思いなかなか訪問できなかった鎌倉市は意外と近かった。

2．建長寺の童子像

（N35.33174,E139.55526）（詳細位置不明）

建長寺では受付の人にこういう像は無いかと聞いたが、ただ頭をひねるだけで判らない。山門から方丈までの境内を自力で探したが石人像は一体も見つからなかった。

上の地図上に載せている写真は既に入手していたが忘れていた。墓地にあるようである。訪問前に確認していたら、地図記載の墓地や個人の河村墓を回って見たであろうと思うと残念だ。＜残念その１＞

写真では判らないがパソコンで拡大してみると腹部に彫ってある「平山洞」らしき文字が読める。

２．合資会社　石春産業　（石材屋さん）

（N35.32135,E139.56960）

建長寺で見つけられなかったので、確実にあると思われる次の３．泉山園に向かった。鶴岡八幡宮をコの字に曲がり金沢街道に入り、所要時間などをメモしながら結構長い距離を歩いた。そのメモ帳は大仏に向かう道で落としたようだ。＜残念その２＞

道中、１体の石人像が目に入ったのがこの石材屋さんである。顔に針金で値札が付けてあり、20 万円を

①

②

③

少し切った価格だ。石人像としては安い。店の廻りに合計４体の文人像が展示してあった（写真①～③）。

①と③に共通する特徴は赤茶けた石材で花崗岩では無いこと、手に持つ笏が通常は④のようにあごの下で止まるが、２体ともあごに被さっていることである。

④

写真④は福井市藤田美術館にある石人像だが、石材が似ている上に縦縞の冠(梁冠)の造りが非常に粗雑であるのが共通している。

身長に占める頭の大きさ（○頭身）、彫りの深さ、笏の位置など異なる所が多いが、韓国ではこのような「塊量感（ボリューム感、重量感）」の無い石人像は見たことがないので、これらは日本国内の石工の手で作られた像ではなかと考える。

３．株式会社　泉山園　（造園業者）

（N35.32070,E139.57100）

続いて泉山園に到着。わくわくするほど石造物がある。梁冠の文人像９体、内侍像１体、童子像２体、それに長明燈が 21 基と圧倒的である。

事務所に立ち寄り話を聞いていると、奥から出て来た女性経営者と思われる方が説明してくれた。「鎌倉は侯爵・子爵が多く住んでいて、石造物を邸宅の庭において楽しんでいたが、代替わりで子孫が財産を維持できなくなって売りに出され市中に出回っている。」とのことである。日本人が好む灯籠に見立てた長明燈が多い理由もこれでわかる。又「石人像は単品ではなく必ず一対でしか売らない」と販売方針を言われたが、ペアでよく保管されている。

入口左の写真⑧の一対も立派な文人像である。童子像一対⑨も本来のものだ。売買対象であっても

⑤

⑥

⑦

大切に扱われる大量の石造物に出会うと嬉しいものである。＜満足その１＞。

⑧

⑨

奥に織部灯籠に「Lhq」刻印があるキリシタン灯籠が１基あった。関東では初見である。

４．小町通り　吉兆美術館

（N35.32030,E139.55210）

⑩

鎌倉の一番の繁華街「小町通り」から少し外れた場所だが駅から徒歩３分の所に吉兆庵美術館があり、玄関先に２体が設置してある。以前所在地リストで「魯山人館」と表示していたものではないかと考えられる。

堂々とした彫刻でこれぞ石人像といえる一対である。＜満足その２＞

小町通りは若い男女がアイスクリームを食べたりジュースを飲みながら散策する姿が多く、京都の町

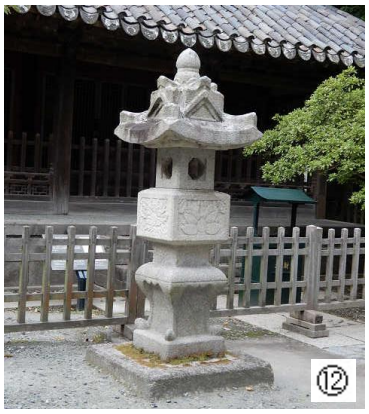
を歩いている雰囲気であった。

５．鎌倉大仏高徳院の観月堂前

（N35.31725,E139.53560）

鎌倉大仏は初めて見学したので、記念写真⑪を撮った。時刻が遅く大仏の体内には入れなかったが、大仏殿の後ろに回ってみて、朝鮮灯籠（長明燈）１基を発見した。（写真⑫）

⑪


⑫

観月堂という建物と大仏様の間である。堂々たる屋根、火袋下の膨らみ、架台は獣足風の四角長明燈である。歩けば何かに出会うことを今回も経験した。＜満足その３＞

ここで泉山園の職人さんが剪定作業をしていた。記念に小さい大仏像を買い求めた。

６．江ノ電長谷駅の路傍　（位置不明）

以前ネットで写真を見ていたこの「長谷駅の路傍の石人像」を、４つ目の満足を目指して付近を探し回った。犬の散歩をしている女性に聞くと、海に出て東に行くと２体有るという情報を得た。海とは由比ヶ浜ですでに５時半。薄暗いなかサーフィンをしている若者や、子どもづれで砂浜を散歩する若夫婦などまだまだ大勢いた。海の写真を撮りきょろきょろ探しながら歩いていたが、カメラのレンズが自動で収納出来なくなった。ケースに収める為に飛び出したレンズを押すとバキッと音がして入った。が、結局故障して、後日見積を取ると修理費が新品より高い４万５千円という。残った複数のバッテリーがもったいないので、中古（２万３千円）で同じ機種を買った。＜残念その３＞

長谷駅出発で海岸沿いに滑川を越えて東へ歩いたが発見できなかった。後でGoogle検索やストリート・ビューで探したが結局この情報については確認できなかった。＜残念その４＞

そのかわりに、ストリート・ビューで和田塚駅の北側の瀧本画廊の２体を発見した。はっきりと確認できたので、再び訪れることがあれば確認に行きたい。多分行けないだろうが。＜満足その４＞

７．瀧本画廊

（N35.31461,E139.54566）

実際に見たわけでは無いが、ストリート・ビュー映像で確認できたので写真⑬を載せる。長谷駅の路傍の石人像とは設置場所も石人自体も異なるので別物と考えられる。

⑬

８．釈迦堂茶寮　（位置不明）

「釈迦堂切り通し」という有名な場所がある付近だとは思うが、詳細位置は不明である。最初の地図に写真を載せているが、笏を持っていないので内侍像であろうと思われる。引き続き調査したい。

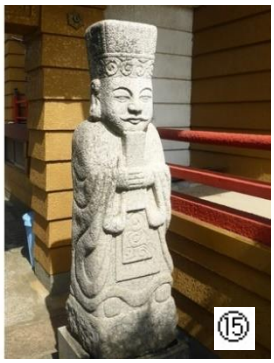
９．その他の情報

石人像についてのネットの情報も少しずつ増えてきている。

（１）東京都北区西ヶ原3-12-6　（写真⑭、⑮）

昌林寺(しょうりんじ)師孝門の前、文人像２体。はっきりとカイゼル髭が彫ってあるものは珍しい。

⑭


⑮

（２）山口県光市室積　海商通り　（写真⑯）

豪商町屋玄関の左右に石人像２体。紗帽と梁冠の像が一緒に建てられていて、この配置は珍しい。

⑯

（３）群馬県赤城温泉　御宿　総本家

文人像１体と織部灯籠（Lhq刻印）を購入した。

（４）山形県酒田市　清亀園（ホテル）

文人像２体と内侍像１体がありそうだ。

（５）京都　下鴨神社　「鴨社資料館秀穂舎（しゅうすいしゃ）」（写真⑰）

⑰

ここはどうも一体だけのようである。京都まで出かけたら訪問する予定である。　（続）